五・六号についてのモニター意見から

（回答状況：学生三名、教職員五名）

★五・六号でもっとも興味深かった記事＝（　）内は指名の数

学生　「大学院重点化構想の足元」（この種の議論の中で最も分かりやすいものだった）、「開かれた学問」、「退職者は語る」

教職員　「退職者は語る」（2）（恒例だがつい読んでしまう。できれば、退職前に知っていれば、と思うこともあるが、味わい深い。写真も「顔写真」ではなく、思い出の「カット」的なものがよかった。／毎年恒例の記事であるが、やはり、お一人お一人の歴史が感じられて面白かった）、「水底の歌」（万葉のロマンが想像される）、「大学院重点化構想の足元」（上領先生の意見に全く同感だ）、「大学院問題特集」（その都度継続してほしい。反対者の意見も重要なことである）、「学長インタビュー」、「開かれた学問」、「ニューズ・ダイジェスト」

★五・六号でもっともつまらなかった記事

学生　「新しい大学像」（つまらなかった、というよりも、こういう記事をみるにつけ、先生方と学生たちの認識のギャップを感ぜざるを得ないために、無駄なような気がした）

教職員　「卒業生・修了生を送る」（2）（たいていパターン化しており、スローガンや心がけ的なものが多い。ただ「デルタの説」といった、タイトルに工夫があると、思わず読んでしまう。なくすわけにはいかないし、むしろ広大の「見識」の水準が最も表明されるところだと思った。／学長のみ掲載してはどうか。学部長の内容はほぼ同じである）、「報道された広大」、「追悼」

★写真、デザインについて

学生　「たまに写りの悪い写真のあるのが欠点ですが、それを除けば申し分ないと思います。頑張ってください」、「表紙の絵で、原爆ドームと平和の塔が傾いているのは、何か意味があるのでしょうか。細かいことですが、改めて見直してみると、少し気になりました」、「裏表紙の小平　肆可先生の彫刻の写真が、量感がわからないように写してあるので残念、という意見があった」

教職員　「写真は、カラーがふさわしいと思われるものがある」、「カラーが多く、とても見栄えのするものとなった。図、写真のレイアウトがとても素晴らしい」、「ページ上部にあるカラーの帯の色分け、特集の変わり目や、項目のまとまりのところで区分した方がいいのでは」、「適量である」

★「広大フォーラム」に求めるもの（前回回答がなかったモニターのみ）

学生　解説性（1）、ニュース性（2）、学問的話題（0）、エッセー（2）、学生生活情報（0）、サークル活動（0）、国際交流（0）、その他（0）

教職員　解説性（2）、ニュース性（4）、学問的話題（2）、エッセー（1）、学生生活情報（2）、サークル活動（0）、国際交流（1）、その他（0）

★「広大フォーラム」の改善のための提言

学生　「分かりにくいと評判の〝開かれた学問〟だが、論文の内容を筆者が決める、といった今までの仕方を見直して、読者から書いてもらいたい内容を募って、その内容にいちばん近いことを研究している教官に書いていただく、というようにしてみては」、「学生の目にも止まりやすいような配布方法を検討してほしい」

教職員　「対象がどのあたりにあるのか理解できていない者の判断で申し訳ないが、学内向けであれば内容が乏しい、学外向けであれば内容不足（広報性がない）、と思われる」、「今回のようなボリュームのある号と、薄くてもいいがニュース性のあるものとの二本立てにすることも一案か？　もちろん厚い方は、発行間隔が現在より長くなる」、「学外者の意見（何でもよい）を載せてはどうか。（大学運営に、学外者を参画させる意味もあると思う）」、「忙しいので学長インタビューとなるのでしょうが、むしろ、文才のある方や投稿される方ではなさそうな職種の方へこそ（思いつきですが、食堂の方や、事務の窓口で直接学生と対応している方）〝インタビュー〟されて、なまの生きた〝声〟（文字ではなくて）を載せることも〝フォーラム〟の活性化ではないかと思います」

★その他の意見

教職員　「〝フォーラム〟の保管（ファイル）の仕方で、良い方法があれば〝フォーラム〟で紹介してください。二穴をあけるわけにもいかないし…」

☆　フォーラム五号と六号は、経費節減と内容の充実を図るため、これまでよりは若干分厚くなりましたが、五・六号合併号としてお届けしました。今回も、この合併号に対して貴重なご意見が寄せられました。

「新しい大学像」に関して、きついご意見がありました。これは二十一世紀に向けての本学の課題と役割を学長が示したもので、もちろん、その基本的理念ならびに具体化の方式に関しては、今後全学的な議論を通して煮詰めてゆくべきものと思います。「開かれた学問」は専門外の人にも分かりやすいように、できるだけ平易に、かつ解説的に書いていただくよう執筆者にはお願いしています。しかし、学問領域の性格等で表現や内容にどうしても難易が出てくるのはある程度止むを得ないと思います。これに関連して、テーマを読者から募ってはどうかというご提言をいただきました。

告知板

#国際シンポジウム「金属錯体の関与する分子認識」

文部省国際研究集会開催経費助成によるシンポジウムを、左記の要領で開催します。

生体内では、核酸、酵素、蛋白などの分子が金属イオンと結合し、金属錯体を形成することで機能が発揮される例が多い。また金属を含む医薬品（抗癌剤シスプラチンなど）の作用機構にも興味がもたれている。

シンポジウムでは世界から化学、生化学、薬学の研究者百人以上が参加して、講演、展示により生体内の金属錯体分子の研究の最前線を展望する。

――記――

▽日時　平成六年七月二十一日(木)～二十三日(土)

▽場所　広島厚生年金会館（七月二十一、二十二日）

広島大学医学部（七月二十三日）

▽主催　広島大学

（連絡先＝医学部総合薬学科組織委員長　木村榮一、内線2461）

#霞キャンパスの電話番号が変わります。

三月七日から霞キャンパス（医学部、歯学部、原医研、附属病院など）の電話がダイヤルイン方式に移行しました。従来の内線番号とは別にダイヤルイン番号が設定されましたので、電話する際には注意してください。霞地区への内線電話は当分の間、一部を除き従来の番号で使用できます。

詳しくは配付された「霞地区構内電話番号一覧」をご覧ください。

新しい案内受付番号は

082―257―5555

（従来の082―251―1111も当分の間利用できます。）